

広報担当が取材に行きます。あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。 **カシャ!!**
 情報交流課 ☎0040 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp



表彰状を手にする大井会長（中央）ら

交通事故の防止に顕著な功績

■静波区交通安全会が市長を表敬訪問

静波区交通安全会が「第63回交通安全国民運動中央大会」で「交通安全優良団体」として県内で唯一表彰され、1月26日、杉本市長に受賞を報告しました。この表彰は、地域における交通安全活動を積極的に推進し、交通事故の防止に顕著な功績があった団体に贈られます。

杉本市長は「静波区の活動は40年近く継続していてまとまりがある。今後も引き続きご尽力願いたい」と話し、大井和正会長は「今後もさまざまな活動に取り組みたい」と決意を述べました。

好きなことを続けて「夢中」になろう

■夢講話

相良小学校体育館で1月24日、「夢講話」の授業が行われ、5・6年生約150人が参加しました。

この授業は、各分野で活躍している本市出身者から話を聞き、自分の夢について考えてもらおうと、毎年行われているものです。本年は細江区出身の漫画家、**桑田晃宏**さんを講師にお招きし、「夢を見つけよう!」をテーマに、自身が漫画に夢中になった経緯などの話を聞きました。また、会場には桑田さんの作品のネームや原稿などが展示され、児童らは目を輝かせて鑑賞していました。



自身の経験談を話す桑田さん

市の防災力のさらなる向上を

■防災拠点の設置、災害時相互支援体制の構築などの協定締結

本市と公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団（B&G財団）は2月1日、「防災拠点の設置および災害時相互支援体制構築」事業に関する協定書を県内で初めて締結しました。

市では前年度に同事業の助成決定を受けており、すでに重機や防災倉庫などを整備。重機の操作研修などを実施しているほか、前年9月の台風の際には被災した周辺自治体に重機の貸出も行いました。杉本市長は「関係機関と連携を図り、防災力の向上を図っていきたい」と決意を述べました。



協定を締結した菅原理事長（右）と杉本市長

補助犬の活動を通して福祉を考える

■福祉体験学習会

県立榛原高等学校で1月25日、総合学習の時間の一環として「福祉体験学習会」が行われ、3年生約30人が参加しました。

講師の川口綾さん（NPO法人静岡県補助犬支援センター理事長）は盲導犬のユーザーとして、実際の生活の様子や日頃から愛用している道具などを紹介したほか、補助犬支援センターの活動などについて話しました。川口さんは「今日の話がすぐに役立つかわからないが、この先何かあった時のヒントになれば」と話しました。



盲導犬を伴って歩く川口さんのサポートを体験する生徒



「今後もサッカーを頑張りたい」と抱負を話した団員ら

地域スポーツの振興と発展に貢献

■細江サッカースポーツ少年団が市長を表敬訪問

1月18日、地域のスポーツ振興に著しく成果を上げたスポーツ団体として「生涯スポーツ優良団体文部科学大臣賞」を受賞した細江サッカースポーツ少年団が、杉本市長を表敬訪問しました。

櫻井美紀雄代表は「団員数は減少しているが、サッカーの底辺拡大に今後も取り組んでいきたい」と抱負を語りました。杉本市長は子どもたちに「練習や試合ができる環境を整えてくれる周りの人たちに感謝を忘れずに、今後もサッカーを続けて」とエールを送りました。

関係機関の連携を確認

■文化財防火訓練

1月22日、釣月院（地頭方区）で文化財防火訓練が行われました。

この訓練は、1月26日の「文化財防火デー」を前に、県の指定文化財である釣月院の本堂東側住宅部分で火災が発生し、本堂に延焼する恐れがある想定で行われ、静岡市牧之原消防署や市消防団など関係者65人が連携を取り合いながら、本堂に向かって一斉放水しました。静岡市牧之原消防署の池田暢章署長は「今回の防火訓練を通じて改善点を見直していきたい」と話しました。



釣月院本堂に向けて6方向から放水する参加者

魅力と活気にあふれた牧之原市へ

■新春初顔合わせ会

市新春初顔合わせ会が1月4日、相良総合センターい〜らで開かれ、市内企業や団体の代表者、行政・教育関係者ら約250人が出席しました。

表彰式（2・3号掲載）の後、杉本市長は「魅力と活気にあふれた牧之原市が開き、本年が新たな始まりの年となるよう、全力でまちづくりにまい進していく」と新年のあいさつを述べました。また、中日ドラゴンズの村松開人選手、東京五輪女子サーフィン金メダリストのカリッサ・ムーア選手からのビデオメッセージも上映されました。



村松開人選手のビデオメッセージを鑑賞する参加者



正月飾りを燃やす参加者ら

願いを込めて縁起物を燃やす

■どんど焼き

NPO法人勝間田塾が1月7日、どんど焼きを行い、市内の小学生や保護者など約20人が参加しました。どんど焼きは、正月飾りや書き初めなどを燃やし、煙に当たることでさまざまなご利益があるとされるほか、その火で焼いた餅を食べることで健康に一年を過ごせるなど、多くの縁起の良い言い伝えのある正月行事です。

参加者は、火の中に正月飾りなどを入れて燃やした後、年末に餅つきをした餅を焼き、みんなで味わいました。